

新しい教育システムを求めて



教務主任
福井 誠

一般に神学校教育は、「原語聖書に基づいて説教が作成できるようになる」基礎教育を目的としており、実践教育は現場にゆだねることを方針としています。しかしながら今日、その教育によって卒業していく教職者が「霊性」と「牧会技術」を求める現場の必要に有

効に応えていないこと、さらにそのような教職者のキャリアを開発する現場の実践教育も、効果をあげていないことが指摘されるようになってきています。

また現代の神学校教育は、教育対象を信徒層にまで拡大することによって、都市部の神学校から遠

く離れた地方在住の、いわば神学校教育を簡単には受けられない学習環境にある信徒層や教育対象の拡大に伴う様々な学習履歴を持つ学習者を考慮した教育実践を求められるようになりました。

このように現代の神学校教育は、複雑化した現場の必要を満たすべく新しい教育システムの再考を避けることができない状況に置かれています。

ところでお茶の水聖書学院は、教会において牧会者の働きを助ける信徒奉仕者の育成を主眼としておりますが、現場の必要性を熟慮した教育実践を求められていることにおいて他の神学校と変わるものではありません。というのも、一般の信徒が狭い意味での献身者になることを目的とせず、神学教育を受けていくことの意義は、学びによって自分たちの牧師とのコミュニケーションをさらに増し加え、教会全体の動きをよく理解し、牧師とのよき協力関係の中でよりよく神の教会にお仕えしていくことにあるのです。神学教育が教養学習で終わることはあり

えず、学んだ信徒が牧師のよき理解者となり協力者となり、教会の秩序をよりよく促進していくことが期待されるわけで、それだけに神学教育は現場に密着していません。

今年度新たに発足した評議員会は、そういう意味で重要なものでしょう。学院に学生を送り出す教会の必要や課題を知り、さらには教会に求められる働き人を生み出す方略が得られるものと期待されます。またお茶の水聖書学院で新たに始まったネットコースも将来的には、単なる遠隔地の通信教育手段であることを越えて現場に密着した新たな教育システムとなる可能性を秘めています。つまり、インターネットで現場の牧師とも繋がり、現場の課題解決に有効な手段を生み出す学習共同体を形成する新しい「知識創造」型の教育システムとして発展させることが可能だからです。

皆さんのご理解とご協力を得ながら、また神の恵みのもとに新しい教育システムを建てあげることによって、導かれていきたいものです。

夏季スクーリングから

研究科・中島總一郎

2006年度OBI夏季スクーリングが恵みシャレー軽井沢であった。7月10日(月)～12日(水)の三日間にわたって、東京フリーメソジスト桜ヶ丘教会の野田秀牧師を講師に迎えて「教会生活の深まりを求めて」を主題に、5回の講義がなされた。その主要点を要約して報告する。

第1回講義「教会生活」。一般の人たちが持つ①個人生活、②家庭生活、③社会生活にクリスチャンはこれらの基盤として④教会生活がある。それは教会としてのからだを構成する肢体としての生き方である。教会生活の中心は礼拝であって、上

記①②③④の全生活すなわち自己の存在そのものが神への礼拝でなければならない。関係を持つ交わりは、神と隣人と自分を等距離に大切にしたい正三角形がもっとも安定していて正常である。

第2回「教会」。教会は柱となり土台となつて真理を支えるところに尊さがある(1テモテ三15)。教会員は自生木ではなく神お手植えの義木で(イザヤ六3)、教会は霊的植林運動をして森の機能を果たす使命がある。森の使命が①空氣の浄化、②洪水から守る、③見た者の心を安ませるように、教会は①存在によつて街を浄化する、②罪の奔流を押しとどめる、③その地域の人々に平安をもたらす。教会は世のどんな組織と

も異なる。自分はそのために植えられたと自覚して行動し、幸いを得たい。

第3回「牧師と信徒との関係」。教会とは信徒を神の僕として育て、教会を建てあげること。賜物や要求がすべて違った多数の信徒を一つのからだとしてまとめ上げ、リードしていくこともある。牧師の勤めは説教で聴衆を動機付けし、どんなことが起こっても「それでも神はおられ、人々を愛しておられる」との意味づけをし、進む方向を示すこと。牧師が勤めるときは注意点は、1ペテロ五2にある。信徒との関係で牧師は①いそがない②いばらない③(うまくいかなくても)いじけないの三つの「い」が大切である。

第4回「説教」。説教の聴き方の二つの間違いは①批判してはならないと②批判ばかりするである。①については、牧師の聖書解釈が不適切な場合もあるので、ベレヤの人々が果たしてその通りかと日々聖書を調べていた(使徒十七11)ように、鵜呑みにしない探求心と健全な批判力をもって聞く必要がある。②についてはベレ

ヤの人々が素直に心から教えを受け入れたように、説教社は神がたてた器であるとして聴く。そうでないといふ御言葉はとどまらない。説教者の課題は①聖書を正しく深く理解しないで独断で語らない、②説教内容を自分の霊的生活によつて裏付けして信徒に見せること、③正しい用語を用い、わかりやすく表現し、よく聞いてもらうためにはユーモアも入れる訓練を。

第5回「教会生活の深まり」のために、目指す教会は①聖書的であること、②健全であること、③目標は愛。すなわち①人が喜ぶ配慮は必要だが人の思いを優先させず、勧めや計画が聖書に基づいていること(1テモテ四13)。②学びだけで真理に達することができないのが聖書である。不健全な信仰の失格者になるな(2テモテ四3)。健全はバランスで計られる。バランスとは中庸のことではなく、信仰と行い、優しさと厳しさのように矛盾すると思われる要素を行動にも品性にも調和して合わせ持つことであり、聖霊の導きによつて与えられる。③どの時代のどの地域のあらゆる活動で教会



が目指すものは愛である。その愛は(a)主に委ねた清い心(b)正しい良心(c)下心のない純粋な信仰(一テモテ一五)から出てくる。

夏季スクーリングに参加して

本科3年生 吉村瑠美子

長野新幹線に乗り、一路東京から軽井沢へ、家族に後を頼んで。

主婦が二泊三日を空けるのは、何と気後れするものかと考えながらも心はもう、軽井沢の恵みシャレーへと、飛んでいます。

前日までに洗濯、買い物を済ませ万事滞りなく整えた・・・昨年もそうだったなと思いついてうちに、軽井沢に着。

早めに恵みシャレーに着き、緑の中に身を委ね、その香りを感じ、もうすでに着いておられたOBの方たちと、一年ぶりの再会を喜び語り合いました。

開会礼拝に始ま



夏季声楽・オルガン研修会と 発表コンサート

り、いよいよ野田秀先生の講義「教会生活の深まりを求めて」が始まりました。やさしく、穏やかにユーモアにあふれ笑いを誘いつつ、私たちが成長したクリスチャンになるためのエッセンスを語ってくださいました。個人生活、家庭生活、社会生活の土台に教会生活があり、それが相働き健全なものとなることを確認することができました。

夏季スクーリングの三本柱。1. 講義。2. 自然。3. 交わりも見つけ、有意義な三日間でした。

去る7月10～11日の2日間に渡り、第2回夏季声楽・オルガン研修会と発表コンサートと称して特別なプログラムが開催されました。昨年は声楽科のみでしたが、会場となった日本基督教団軽井沢追分教会の素晴らしいパイプオルガン(オランダのライル社製)を使わせていただけたことと、今回は一般コースの声楽科OGを中心に4名、オルガン科5名が参加しました。夫々短い時間でしたが青々とした緑に囲まれた素晴らしい環境の中、響きの良い会堂、また普段は電子楽器ですが、初めてのパイプオルガンでのレッスンを通して、受講生一同大変良い学び

と経験をさせて頂きました。さらに今回は、聖書科のスクーリングにも部分的に参加し、食事なども一緒に過ごす中で、良き交わりが持たれました。また去年と同様、追分教会の諸先生方や教会員の方々、OB・聖書科の先生方、受講生の方々(有志)が最終日の「受講生と講師による発表コンサート」に来て下さり、共に主を崇め、主を賛美するひと時を持ちました。主の恵みと祝福に本当に感謝、感激、感動しております。

今回は宿泊場所の恵みシャレーと教会間の移動を関係者の方々にお願いし、ご負担をおかけしたこと、プログラムの都合上オルガンなどの練習時間がほとんど取れなかったことなど、今後については他にもいくつかの検討課題はありますが、主が導いて下さるなから来年も是非開催したいと願っております。

このプログラムのために、快く会堂を開放して下さいた追分教会の稲垣守臣師、壬午師、望月師を初め御教会の皆様、またこのプログラムを理解し、励まし、ご協力下さったOBの諸先生方、事務局の方々に、この紙面をお借りして心からお礼を申し上げます。

(講師 内藤真奈)

学窓トピックス

聖書科から

7月7日前期授業が終了、夏休みに入りました。9月4日より授業は再開9月29日に前期は終了の予定です。サマースクーリングは、7月10～12日の日程で軽井沢恵みシャレーにて、野田秀先生をお招きして「教会生活の深まりを求めて」というテーマのもとに実施されました。総勢59名の参加、豊かな経験に基づく主のみことばの解き明かしに、それぞれが養われる時となりました。

後期は10月2日より始まりますが、新たに、毎週月曜日15:30～17:00の日程で、中島總一郎氏による『聖書人生講座』を開講予定です。参加申し込みを受付中です。ぜひ、お申し込みください。

来年3月卒業予定の、吉村瑠美子さん、伊藤洋子さん、坂口幸紀さん、小林則義の卒業研究指導が始まりました。それぞれ意欲的に学びのまとめに取り組んでおられます。それぞれの学びの祝福のために覚えてお祈りください。

なお、今年も来年3月卒業式後の日程で「聖書の世界」ツアーを予定しております。また後ほど詳細をご連絡させていただきます。

音楽科から

いつも学院の働きのためにお祈りくださっている皆さまに、心より感謝申し上げます。

今年も、10月21日(土) 13:00～16:30まで、お茶の水クリスチャンセンター8F、チャペルにて、「全地よ、主に向かい喜びしき声をあげよ」というタイトルのもと、第7回教会音楽デーを計画しております。この教会音楽デーは、もともと学びたいという声の多かった聖歌隊のための学びであり、昨年に引き続いて実施いたします。全体のプログラムは、開会礼拝に続き、事前に申し込んだ教会の聖歌隊の賛美を聴かせていただいた後、賛美のための呼吸法、発声法、発音法、記譜法、指揮法を学び、つぎに課題曲を皆さんで練習する予定です。

各教会の聖歌隊を指導している皆様をはじめ、聖歌隊のメンバーの方々、これから聖歌隊を編成し

ようと願っている方、賛美についてもっと学びたい方にとって、実り多い学びのときになればと願っております。また、当日、聖歌隊に参加していただく教会を募集していますので、事務局までお申し込みのうえ、奮ってご参加ください。曲目は、通常の礼拝のなかで奉仕している賛美歌をお願いいたします。

課題曲のこと、申し込み方法など、詳細はOBI事務局まで、お問い合わせください。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

ネットコースから

ネットコースでは、9月より学習システムが変わります。これまではDVDで郵送された学習教材を視聴し、レポート課題や科目試験課題をそれぞれ提出し修了するというものでした。今後は、DVD教材のみならず、書籍などによるテキスト学習、またインターネットのテレビ会議システムを利用した学習など科目により様々な教育手法を活用した学習システムを採用してまいります。

科目としては、新たに臨床牧会学入門(下)、聖書重要教理(下)、旧約聖書概観(下)、続あかし文章講座、ローマ書、牧会書簡、教会教育入門、キリスト教説教入門などが加わりま

す。また、インターネットによる学びは、パソコンに慣れないために難しいという声もありますので、今後は登録申し込みや学習がFAXや郵便などでも可能な方法を実施してまいります。準備が整い次第、この紙面でもお伝えしてまいります。ぜひご期待ください。

【おわび】

2006年4月28日発行のOBIニュース第15号学窓トピックス聖書科に記載の内容につきまして、「卒業生の芳賀功兄は、日本ホーリネス教団の「勸士」認定制度に応募し、その必要とされる単位の約半分を本学院で修得した単位より認めてもらいました」という記載は、削除させていただきます。関係者各方々にご迷惑をおかけしましたことを、ここにつつしんで陳謝申し上げます。

(教務主任 福井誠)

主と教会に仕える 同窓生たち④

第1回スクーリングの恵み

一九九三年

国東 恵子(二期生)

机に飾っている一枚の懐かしい写真、それは第一回OBIスクーリングの開会賛美の時のものです。十年以上も前ですが、なぜかその時の光景が、今も鮮やかによみがえってきます。当時私は本科三年生、四月に胆石の手術をして、癒された直後でした。

集会の前に、西脇達子先生の迫力ある賛美の独唱に始まり、先生の賛美指導で共に歌い、休み時間も、音楽科の先生方の賛美の音が響きわたり、まさに賛美にあふれたスクーリングの始まりでした。この時たくさん聖歌をおぼえ、賛美のすばらしさにふれ、現在は教会の聖歌隊で歌っています。

開会礼拝は、増田誉雄先生の「神の作品」。朝の光は、島田福安先生の「祈りについて」世良田湧侍先生の「聖霊の満ちし」、第二部は、本田弘慈先生の「ヤコブの生涯」と「バルナバの生涯」、第二部は羽鳥明先生の「祈りの実践」と「宣教の実践」でした。三日間にわたり、すばらしい福音の神髄が語られましたのに、私は何と不消化だったことかと、当時のノートを見ながら、「後で分かるようになります」とおっしゃった主イエスのお言葉を思い出しています。

最終日、隣の人と祈り合うひと時がもたれました。私たちが祈り終わった後も、すぐ前の本田、羽鳥両先生は、互いに向き合ってひたすら祈り、そのうちに椅子からおりて、下の床に座って祈り、さらに頭を床につけて、ひれ伏して祈り続けられました。両先生の真剣勝負ともいえる祈りに接して、学院に対する並々ならぬ愛を感じ、その気迫に圧倒されました。祈りの

霊が、我々に伝わってくるような不思議な感動を覚えました。はからずも、すばらしい賛美と祈りの実物教育をしていたのだおかげで、山から降りて、祈祷会に欠かさず参加するようになり、賛美と祈りが、私の魂の奥底にしっかりとセットされたスクーリングとなりました。

OBI創立の年、女性の時代と言われていた時、三島の地から学院に導かれました。「今は女性の時代だから仕方がない」との牧師の一言で夫も入学を認めたと後で聞きました。

週一回、玄関横の大きなプレートの「霊に燃え、主に仕え」に迎えられ、心の中で口ずさみながら、本科、研究科、聴講生として十年近くもお世話になりました。聖書を学ぶ中で、私達は「神の作品」として神様に愛されている事、一人一人の人生に神様のご計画がある事、その人にしかない神様からの使命が与えられている事を確信しました。私自身の女性としての使命

をも。現在、教会の伝道役員、礼拝、祈祷会の司会、三島レディースアワー実行委員長、「愛の会」主宰、結婚相談、母校のチャペル奨励等、一信徒にすぎない者に、主のご愛とご真実を証しする機会が与えられています事は、「主の不思議という他なし」です。測り知れない主の恵みを感じます。



『パウロの足跡を訪ねて』③

副学院長 藤原導夫

「トルコ入国時のパプニング」

私たちの旅は利用した航空会社との逆の道順を辿ることとなった。パウロはアジアからヨーロッパへと進んだが、私たちはヨーロッパからアジアへと入っていったのであった。

それはギリシャからトルコへと渡る国境でのことであった。バスは国境で私たちを降ろすことになっていった。そこには検問所があり、私たちはそこで通関手続きをしてトルコ側で待機している別のバスへと乗り移る予定であった。

しかし、手続きがスムーズに運ばないのである。理由は分からないが寒風の中で数時間も待たされる羽目となってしまっ

た。既にギリシャからのガイドもバスも帰ってしまい、検問所を越えないことにはトルコ側のガイドに会うこともできないという動きの取れない状態となっていましたのである。

日本からの女性添乗員が係



アルテミス神殿遺跡

官に掛け合うのだがうちの明かない様子であった。彼女は私たちにそっと「今日の係官は石頭だ」とつぶやいた。普通ならもっとスムーズに運ぶのだそうである。その言葉の通りのことが起きた。係官は疑いを抱いたのか、一人残らずの荷物を調べると言い出したのである。私たちは言われるままに、すべての荷物を道路上に投げ出すようにして置かれ、スーツケースな

どすべてを開いて係官に見せることを強いられたのであった。

最終的にはやっと許可が下りて、重い荷物を引きずりながらトルコ側で待っているガイドとバスへと向かったが、予定の間をはるかに過ぎてしまってい

た。日本とトルコとは古くから互いに友好的であるという印象を抱いていたが、今回の経験と夕暮れ迫る薄暗さも加わってか、何だかその印象がはかなくしぼんでいくような思いにさせられてしまった。

「アルテミス神殿の栄枯盛衰」

現在のトルコはイスラム教国であり、至る所にモスクがそびえ立っていた。しかし、そのトルコにもまた聖書や教会史にま

つわる遺跡があふれていた。その中でも私がとりわけ心引かれたのはパウロが伝道したエペソの街であった。第3回伝道旅行の際に、パウロはこの街に3年間も留まって伝道したのであった。

当時のエペソはアジア州の第一の都市であり、通商交易の拠点としても栄えていた。そこにおけるパウロの伝道は「アジアに住む者はみな、ユダヤ人もギリシヤ人も主のことばを聞いた」（使19・10）と言われるほどに盛んになされたのであった。

しかし、そこでの反対や迫害も激しかった。エペソには古代世界の七不思議のひとつに数えられているアルテミス神殿が建っていた。それはギリシヤのアテネにある有名なパルテノン神殿の4倍大で、石造りの素晴らしい円柱が建物を支えて127本

も並んでいたという。そこに祀られていたのが大女神アルテミスである。このアルテミスを拝むために周辺各地から多くの人々が集い、エペソの一大産業ともなっていた。

そのような性格の街におけるパウロの伝道はそのまま見過ごされるわけにはいかなかった。アルテミス神殿の模型を作って商売をしていたデメテリオという銀細工人が人々を煽動してパウロと福音に対して反対したのであった。結局パウロはそこから追い出されてマケドニアへと向かうこととなった。

私たち一同はアルテミス神殿が建っていたという場所を訪れた。しかし、そこは沼地のようなじめじめした低地に変わっていた。127本もあったという壮麗な石柱は一本だけが残されて見る影もないような姿で立っていた。その柱の上に一羽のコウノトリが羽を休めていたのが印象

的であった。

エフエソスの博物館にはアルテミス神殿に祀ってあったという巨大な大理石の大女神像が収められていた。大理石は長い歴史の流れの中でくすんでしまっていたが、この女神を拝みに人々は集まってきたのであり、パウロはこのような偶像崇拜と戦ったのだということがひしひしと伝わってくるようであった。

「ミレトでの説教」

パウロは第3回伝道旅行を終えてエルサレムへ上る

うとした。しかし、エルサレムにも迫害が待っていた。パウロは港町ミレトにエペソ教会の長老たちを呼び寄せ、最後の時を共に過ごしたのであった。人々はパウロのことを案じて涙ながらにエルサレ



ミレトでの説教

ム行きを止めたのであったが、パウロは動じなかった。

その時の様子とそこでパウロがなした訣別説教は使徒の働き20章に詳しく記されている。主イエスが「受けるよりも与える方が幸いである」と教えて生

きられたようにパウロ自身も歩んできたこと、あなたがたもそのように歩んで欲しいとのメッセージが遺言のようにして語られたのであった。

私たちがミ

レトを訪れたのはちようど受難週が始まる日曜日であった。ガイドはパウロがここから船出したであろうと言われている場所の近くにあり、今は廃屋となっ

てしまっているパウロ記念教会の跡地に私たちを導いた。私たちは戸外の青草の上に座って礼拝を守った。

私は今回の旅行ではチャプレンとして奉仕させていただいたが、この日に説教するという特権に与った。場所はまさにミレトである。当然のように使徒の働き20章から説教した。もう30年以上説教してきた自分であった。しかし、聖書の世界ミレトに立ち、そこでなされたパウロの説教をテキストとして説教するなどということは思ってもみないことであった。それが実現したのである。この感動、この感激、この感謝はどのような言葉をもってしても言い尽くすことはできない。それは、説教者として歩んできた私にとつて決して忘れることのできない出来事となったのであった。

OBI会計報告

主の御名を賛美いたします。OBIは第5期（2005年3月1日～2006年2月28日）を終了いたしましたので、ご報告申し上げます。OBIにとって依然厳しい経済環境は続いておりますが、多くの方々に支えられてここまで歩んでこられたことに、心から感謝申し上げます。また、山崎製パンからの献金を有効に活用するために、第4期に引き続き、聖書科では講座の充実と事務の効率化、音楽科では新しいパンフレットの作成や募金コンサート等行事の充実にも励んでまいりました。さらに将来のOBIのしつかりとした礎を築いていくためにも、第4期にトライアル的はじめました通信コースを「OBIネットコース」として正式に開講し、現時点ですでに10以上の科目が受講可能となっております。ユビキタスの時代にふさわしい受講形態の実現をこれからも懸命に探求してまいる所存です。

今後とも何卒、関係各位の御指導、御鞭撻の程、御願い申し上げます。

◎2006年4月～8月

特別献金御芳名録（敬称略）

▽個人の献金

飯島勅 野田秀 平松庸一
増尾義善・邦子

▽団体の献金

腰越独立教会 声楽コース（植木朋子）
ホサナキリスト教会

◎OBI後援会献金御芳名

▽維持会員

有田貞一 有田美栄子 飯嶋多稼夫
猪狩友行 小野沢恵子 金本悟

木下順子 国東恵子 窪井節子

窪田淳子 小林喜久男 斉藤とし子

佐藤敬 佐野謙次 佐野寿美子

須子都 関節子 世良田湧侍

田中恵子 中川和代 浪井弘子

西 満 羽鳥明 平松庸一 福井誠

藤原導夫 増田誉雄 増尾善文

松岡常子 三浦喜代子 三浦秀弥

宮本三枝子 森 登 森本馥

依田和子 脇阪勇 山口勝政

堀 肇 近藤はるみ 目崎由起子

▽協力会員

阿江美千代 伊藤洋子 奥津 晃
加賀谷文子 木下寿子 古賀文子

佐野謙次 須子都 地引祺真

中島總一郎 日名富子 福井ちよ

藤村陽子 目崎由起子 三浦秀弥

山本敏夫、吉田加代子

▽団体会員

中山キリスト教会

◎夏季特別献金

吉田加代子 木下寿子 伊藤洋子

目崎由紀子 森井あずさ

阿部幸平 窪井節子 島田裕子

中島總一郎 石塚幸子 加茂康一

橋本みどり 増尾義善・邦子

天海和彦 菅井正道 山口勝政

三浦喜代子 平澤素香子

倉沢薫代 内山未知 飯嶋多稼夫

滝田幸恵 米田由起子 脇坂勇

中村良子 世良田湧侍

杉山礼子 西 満 市川北教会

藤原導夫・智子 窪田淳子

国東恵子 森本馥 伊地智恵子

三浦秀弥 飯島勅 小林亘

増田誉雄 坪井夏夫 宮本三枝子

宮内芳枝 福井誠 堀 肇

OBI 第5期財務状況
2005/3/1～2006/2/28

前期繰越金	2,038,663
当期収入	
授業料収入	7,423,121
行事収入	2,960,969
献金収入	13,798,500
助成金収入	3,000,000
その他収入	124,645
収入計	27,307,235
当期支出	
学事支出	15,015,823
行事支出	2,249,992
経費支出	11,449,342
その他支出	77,630
支出計	28,792,787
次期繰越金	553,111